



いよいよ冬将軍がやってきて、一層寒い季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。今年度もコロナ禍の中で4月から公民館が動き出しました。制限はありましたが、講座や行事も実際に使えるところが増えました。当館においても、ほとんどの講座が予定通り実施されて、コロナ禍前の令和元年度同じ時期の累計参加者数に近づきつつあります。県内ではまだ第8波に入っているようですが、今後収束するか、コロナ治療薬が完全に開発されてインフルエンザ並みの対応になっていくことを祈りたいところです。

師走になり、当館においても今年開催してきた8つの講座の閉講式が行われています。受講生にとって満足感の得られた講座であったかどうかは、公民館としては一番の関心事ですが、アンケートを見るとどの講座においてもおおむね受講生の良好な反応がありました。来年度もリピーターとなって受講される方が増え、また口コミでこの受講生の輪が広がっていくことを願っています。

毎年恒例になっている京都の清水寺で発表される「今年の漢字一文字は『戦』」でした。一番の話題としてはロシアのウクライナ侵攻がありますが、最近ではサッカーのワールドカップで日本が快進撃したという嬉しいニュースもありました。さて、みなさんにとって今年一年はどんな一年だったでしょうか。漢字一文字で表してみるのもいいかもしませんね。それではみなさまよいお年をお迎えください。



福井学基礎講座 12月10日(土)開催しました！

○テーマ 実践発表「赤大豆を和田地区の名産に」

○講 師 和田地区まちづくり委員 浅野重雄氏 和中由紀子氏 和田公民館主事 細川賢治氏

福井学基礎講座では例年最終回に各地区の特色ある活動を発表してもらっています。

「赤大豆」ってご存じでしょうか？和田地区で生産を始めている「赤大豆」。きっかけは、福井国体で振る舞った、赤大豆の「ちらしずし」が好評だったことから翌年より地区で生産を始め、特産品にしようと活動されています。

赤大豆とは室町時代から日本で作られている日本固有の在来種ですが、生産は大変少ないそうです。

地域の中で赤大豆生産が広がり、赤大豆の商品化などいろいろ考えながら今後も取り組んでいくとのことです。

また、和田地区七福神による寸劇が披露され、とてもユーモラスな福井弁いっぱいでおもしろおかしい、心いやされる劇でした。

和田地区まちづくり委員の皆さんのが赤大豆栽培と寸劇に挑戦されている姿から、これから和田地区がどのようにしていくのかがとても楽しみです。





青年講座 合同閉講式 12月17日(土)開催しました！



○テーマ ワールドクッキング～ジンジャークッキーとエッグノックで一年を振り返ろう～

○講 師 ふくい市民国際交流協会 ブライアンさん 時岡さん

連続講座に参加している講座生と一緒にクリスマス料理を作成しました。青年講座初の「English Cooking」を行いました。英語だけの調理ってどうなんだろうと戸惑う様子も見られましたが、ブライアン先生が分かりやすい英語で講座生に説明してくれたおかげで、無事に完成しました。

青年講座は3月まで続きますが、講座生と一緒に楽しい講座を運営できたことが何よりもうれしかったです。



学び舎サロン 12月21日(水)開催しました！

○テーマ 現場でトーク「DX(デジタル・トランスフォーメンション)を知ろう！」

○講 師 福井県地域戦略部 DX 戰略課 主査 河合義文氏

「DX」とは、デジタルトランスフォーメーションの略称です。デジタル技術等の活動で社会・産業・生活が大きく変わることを言います。例えば、ドローンで荷物を運んだり、農薬散布をしたりしていますね。スマホのテレビ電話機能を使って遠隔の家族と通話したり、LINE グループで多くの人と一斉に会話をしたりしています。このようなこともDXとなります。

皆さんご普段から使用しているスマホはたった5年という短い期間で大きく普及したといわれています。デジタルの急速な普及により社会全体が大きく変化せざるを得なくなりました。

福井県の取り組みとしては、各市町・企業や県民一人ひとりと協働しながらDXの普及に取り組みを進めています。

「ふく割」の電子クーポンやマイナンバー取得のための講座などが身近に感じられる取り組みとしてあげられます。

「DX」は不慣れや苦手意識などがあるかもしれません、自分自身が、周りが、社会が、デジタルの進歩と一緒に変わっていかなければいけないと感じました。便利なものはどんどん取り入れながら、自分自身に合うDXを取り入れてみましょう。

